

別紙1 市立府中第五小学校改築に係る基本計画（中間報告）

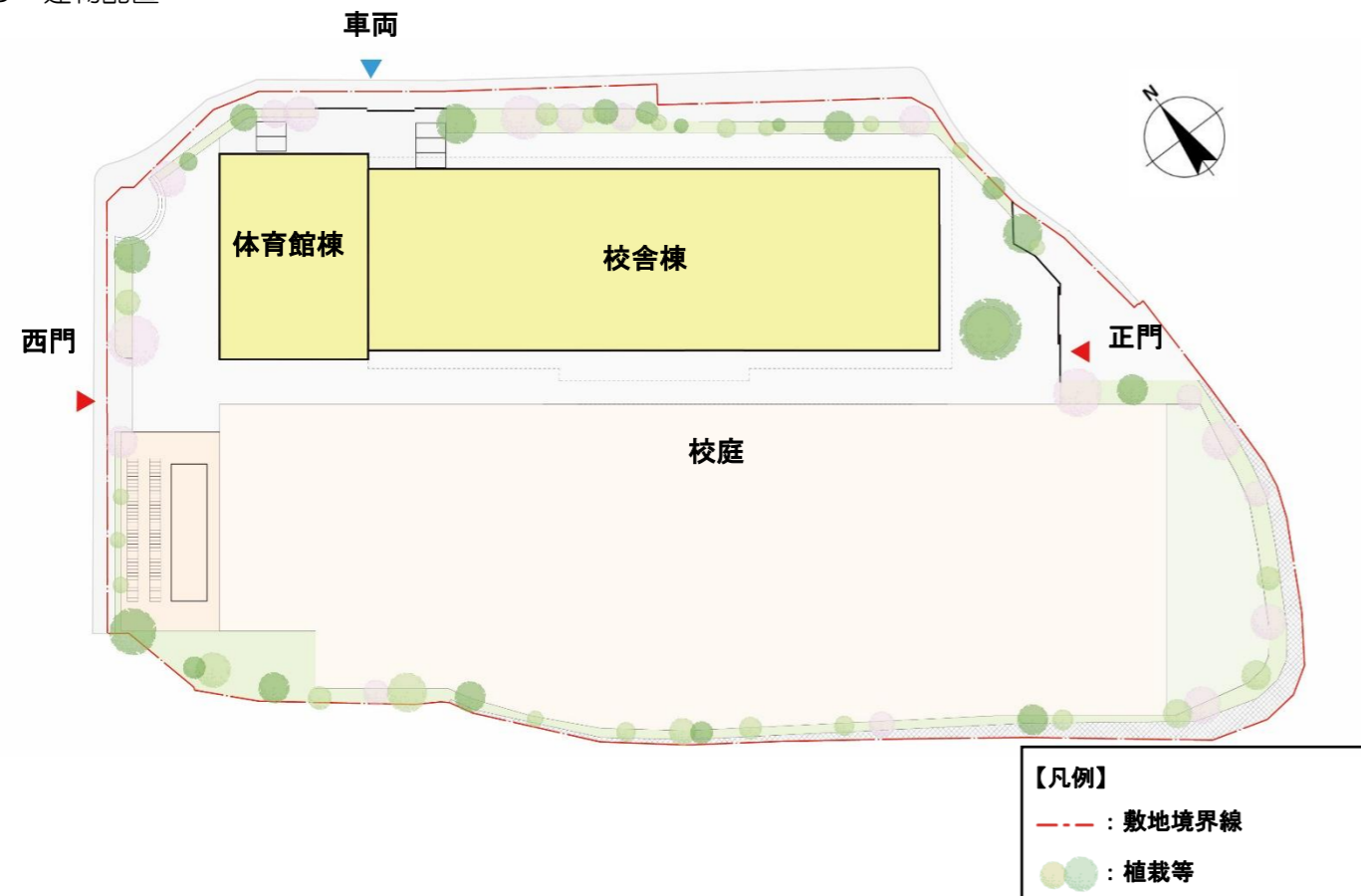
1 改築計画施設の予定規模

延床面積 校舎棟 約8,400㎡
 体育館棟 約1,200㎡
 附属建物（屋外倉庫、屋外トイレ等）
 階数 3階建て
 構造 校舎棟 鉄筋コンクリート造
 体育館棟 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

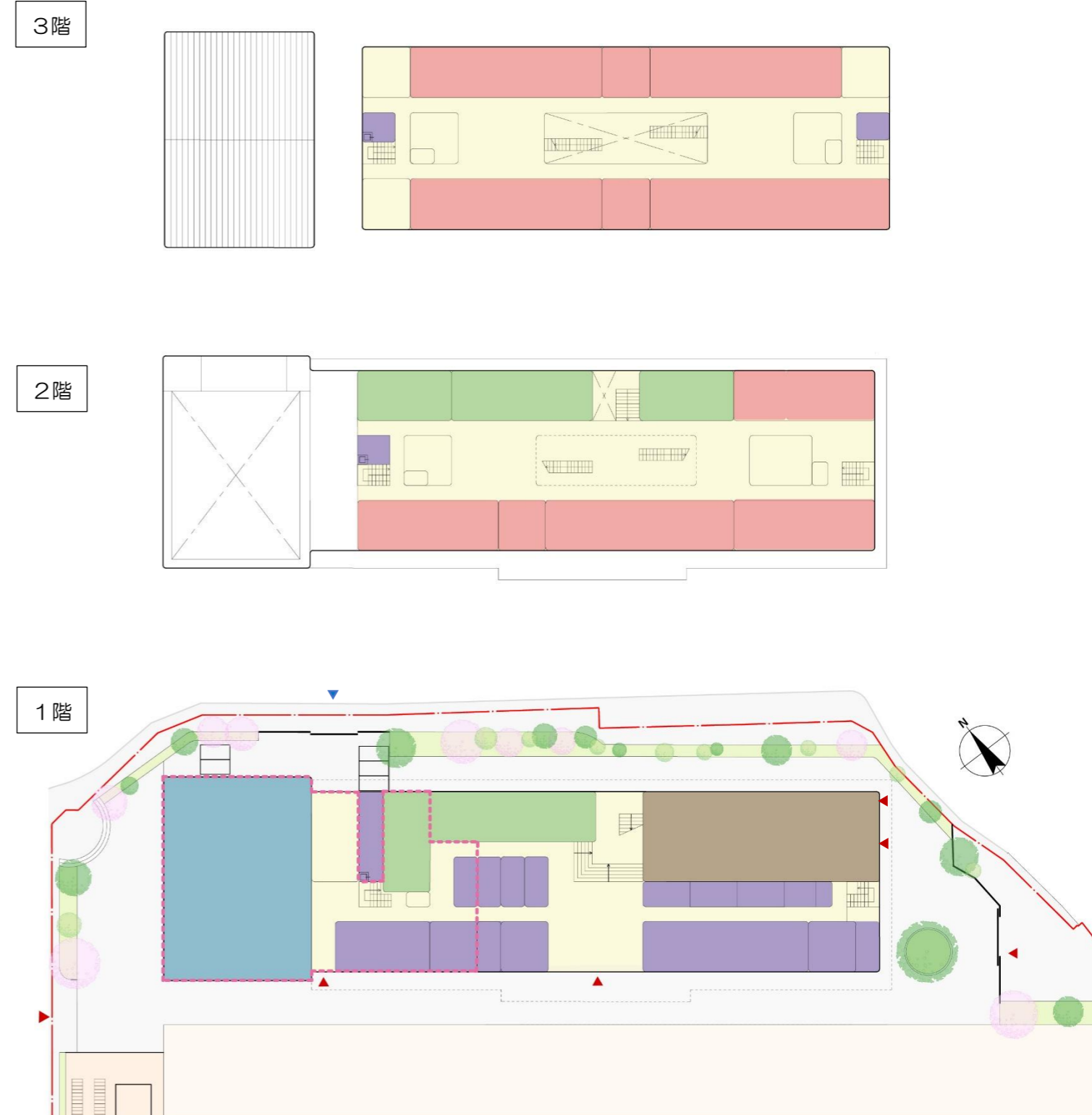
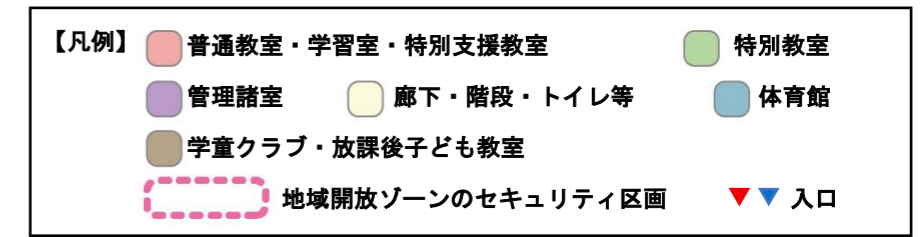
2 構成諸室

校舎棟 普通教室（普通教室、学習室）
 特別教室（理科室、音楽室、家庭科室、図工室、メディアセンター、教育相談室、サポートルーム等）
 特別支援学級諸室（教室、プレイルーム、教材庫）、特別支援教室
 管理諸室（校長室、校務センター、保健室、用務員室、印刷室、倉庫・教材室、会議室、配膳室、放送室、職員更衣室）
 共用部（廊下、階段、トイレ等）
 その他（児童更衣室、多目的ルーム、PTA室、学童クラブ、放課後子ども教室）
 体育館棟 体育室、器具庫、防災倉庫、更衣室等

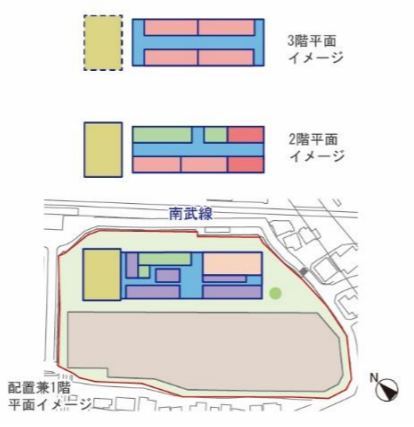

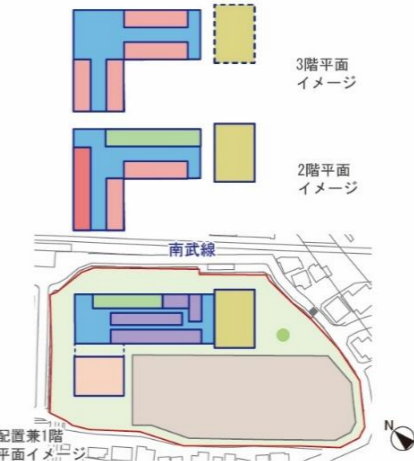
3 建物配置



4 平面ゾーニング（例）



6 建屋配置案比較検討

		A案：北側校舎配置-1 (普通教室南北配置案)	B案：北側校舎配置-2 (普通教室南側配置案)	C案：北側校舎配置-3 (普通教室南北-体育館東側配置案)
<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 共用部 校庭 敷地 普通教室 特別支援 特別教室 体育館 管理諸室 学童 				
普通教室環境	普通教室の向き	2階は南向き、3階は南北向き	全ての普通教室が南向き	2階は南東向き、3階は東西南北向き
	普通教室と共用部（学習ラウンジ）の関係	普通教室の前に学習ラウンジを配置できる。		
各校独自の項目	J R南武線との離隔	北側教室がJ R南武線に面する。		
	特別教室の配置	1・2階に配置	1・2・3階に配置	1・2階に配置
	廊下の長さ等	廊下の距離は長くなるが、直線で見通しが良い。		廊下の距離が長く、2・3階は屈折している。
その他の比較項目	土地利用・校庭の大きさ	教育活動に必要な校庭面積を確保できる。		
	工事計画	仮設校舎の建設が不要なため、移転に係る児童への影響が少ない。		建設と解体が入り組んだ複雑な工事工程になることから、工期が長くなる。
	工事動線	北側及び西側道路から工事搬入を想定しており、動線上の問題はない。		
	事業コスト	仮設校舎の建築が不要なため、コストを抑制できる。	仮設校舎の建築が不要なため、コストを抑制できるが、全教室を南向きにすることで共用部が大きくなる分、コストが高くなる。	建設と解体が入り組んだ複雑な工事工程になることから、コストが高くなる。
総合評価	<p>市立府中第五小学校は、敷地南側の一部が急傾斜地崩壊危険区域及び土砂災害警戒区域となっていることから、北側配置を前提としている。</p> <p>いずれの案も教育上必要十分な校庭面積を確保できるが、C案は施設が屈折することから、一部の普通教室の採光や廊下の見通しに課題がある。また、工期や事業コストにおいても、A案、B案と比較して劣っている。</p> <p>A案、B案を比較すると、B案の方が延床面積が大きくなり、A案の方がより広く校庭面積を確保することができる。</p> <p>以上のことから、児童により良い学習環境を提供するとともに、工期やコスト面という視点からも、A案が最適な配置案であると考えられる。</p>			